

# 岡山県感染症週報 2018年 第15週 (4月9日～4月15日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(4月26日)

## ◆2018年 第15週(4/9～4/15)の感染症発生動向(届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第13週	5類感染症	百日咳	2名(小学生 男 2名)
第14週	2類感染症	結核	2名(20代 男 1名、80代 女 1名)
	5類感染症	百日咳	2名(幼児 女 1名、小学生 女 1名)
		梅毒	4名(20代 男 1名、30代 男 2名、80代 女 1名)
第15週	2類感染症	結核	2名(30代 女 1名、90代 男 1名)
	4類感染症	レジオネラ症	1名(60代 男)
	5類感染症	百日咳	1名(40代 女)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名(70代 男)
		侵襲性肺炎球菌感染症	1名(幼児 男)
		梅毒	2名(20代 男 1名、40代 女 1名)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- インフルエンザは、県全体で67名(定点あたり1.56→0.80人)の報告があり、前週より減少しました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で78名(定点あたり0.94→1.44人)の報告があり、前週からわずかに増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で349名(定点あたり5.81→6.46人)の報告があり、前週からわずかに増加しました。

1. [インフルエンザ](#)は、県全体で67名(定点あたり1.56→0.80人)の報告があり、前週より減少しました。岡山県では、県全体の定点あたり報告数が第15週(0.80人)、第16週(0.79人)と2週連続して1人を下回ったため、2017年12月7日に発令された「インフルエンザ注意報」を、4月26日をもって解除しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2017/2018年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」は解除されました](#)』をご覧ください。
2. [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で78名(定点あたり0.94→1.44人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市(2.50人)、倉敷市(1.82人)、美作地域(1.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多い感染症で、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
3. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で349名(定点あたり5.81→6.46人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市(8.93人)、備前地域(6.60人)、備北地域(6.25人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。
4. [梅毒](#)は、第15週までで41名の報告がありました。昨年の同時期(18名)に比べて、2倍以上の報告数となっています。また、年代別でも、昨年の同時期に比べて、10代が0名→4名(男2名、女2名)、20代が5名(男3名、女2名)→10名(男8名、女2名)となっており、特に若年層での増加がみられます。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	ヘルパンギーナ		
流行性耳下腺炎		★	急性出血性結膜炎		
流行性角結膜炎		★	細菌性髄膜炎		
無菌性髄膜炎			マイコプラズマ肺炎		
クラミジア肺炎			感染性胃腸炎(ロタウイルス)		★

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少  
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

## 注意喚起情報～沖縄県で麻疹感染拡大～ これから旅行される方、また旅行された方はご注意を!

### ※沖縄県で麻疹（はしか）の感染患者が増えています！

沖縄県では、平成30年3月下旬に台湾からの旅行者で麻疹感染が確認されてから、県内各地への感染が広がっており、4月25日時点での麻疹感染者数は71名にのぼっています。加えて、他県での感染の広がりも報告されています。

3月17日以降に沖縄県に旅行された方は、麻疹ウイルスの暴露を受けた可能性があります。沖縄県から移動した後3週間以内に発熱を認めた場合は、あらかじめ医療機関に連絡し、沖縄県での滞在歴、ウイルス暴露の可能性、予防接種歴等を伝え、医療機関からの指示に従うようにしてください。

今後沖縄県に旅行、滞在を計画されている方は、沖縄県からの注意情報「[沖縄県へのご旅行・ご出張を予定されている皆様へ](#)」（沖縄県保健医療部地域保健課 HP）等をご覧ください。事前に十分に安全性についてご確認の上、必要であれば予防接種をご検討ください。

特に麻疹に感染すると重症化しやすい年齢である小学校入学前までのお子さんについては、MRワクチンの予防接種の状況を、今一度ご確認ください。（この年代では定期接種2回となっています。母子手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。）

### 「麻疹（はしか）」とは

麻疹ウイルスによっておこる感染症で、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症し、極めて重篤となることがあります。感染経路は空気（飛沫核）感染のほか、飛沫や接触感染など様々です。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。感染力はきわめて強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。予防接種が唯一の有効な感染予防法です。

[沖縄県保健医療部地域保健課ホームページ](#)

[麻疹とは（国立感染症研究所）](#)

[麻疹について（厚生労働省）](#)

## 海外へ渡航される方へ

海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。海外に渡航される場合には、渡航先の感染症に対する予防対策が必要です。

### 出発前の注意

- ・ 感染症に対する正しい知識と予防に関する方法を身に付けましょう。
- ・ 渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
- ・ これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を検討しましょう。

### 旅行中の注意

- ・ 生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの乳など、火が通っていないものを食べることは避けましょう。
- ・ 肌の露出を少なくする、虫よけ剤（ディートやイカリジン含有）を使用するなど、蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・ 動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。  
（狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
- ・ 外出後は、しっかり手洗いをしましょう。

### 帰国した後に

- ・ 帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
- ・ 帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

海外へ渡航される方に向けた詳細な感染症情報が厚生労働省のホームページに掲載されています。

[ゴールデンウィークにおける海外での感染症予防について（厚生労働省）](#)

## ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

これからの季節、レジャーや山菜採りなど、野外で活動する機会が増えます

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。春から秋(3～11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。



フタトゲチマダニ  
岡山県環境保健センター

### 【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤(ディートやイカリジンを含むもの)を噴霧しましょう。(虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

### 【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎容易に取り除くことができる場合(2、3日以内)は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合(数日以降)は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

### 【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

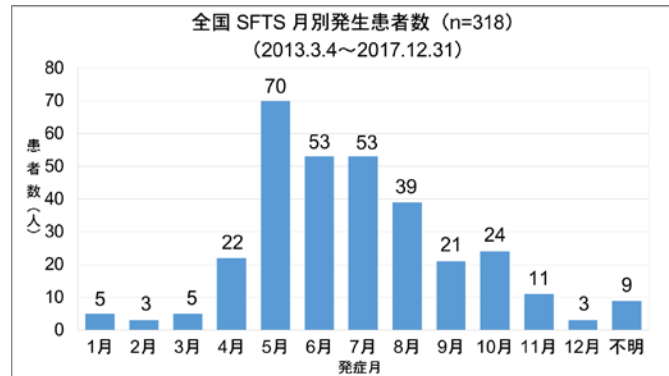
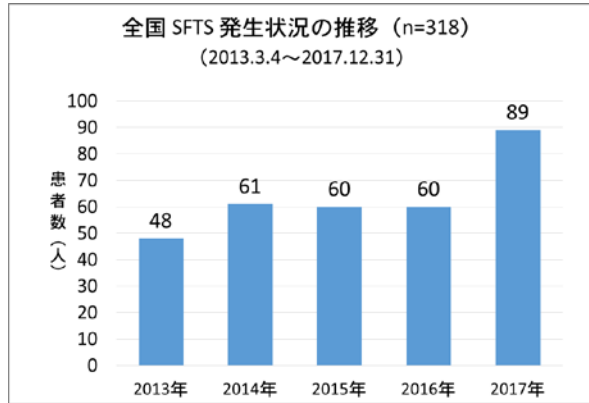
★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A](#) (厚生労働省)
- ⇒ [マダニ対策、今できること](#) (国立感染症研究所)

## ＜昨年までのダニ媒介感染症の全国および岡山県での発生状況について＞

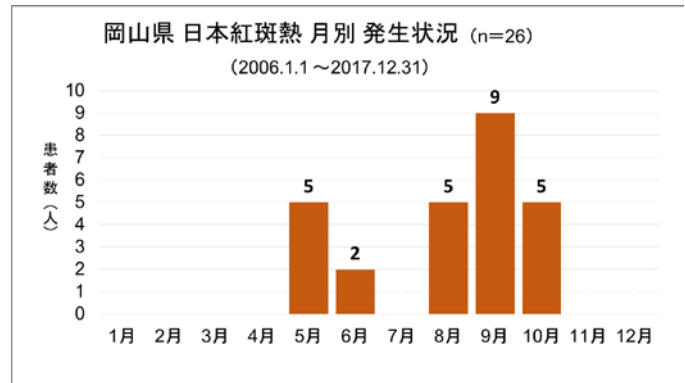
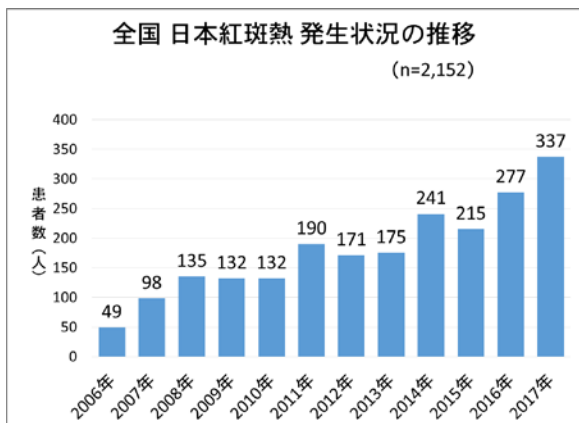
### ☆SFTS（重症熱性血小板減少症候群）

全国では、例年 60 名前後の報告がありますが、昨年（2017 年）は、89 名と患者の増加がみられました。時期的には、4 月から患者数が増え始め、5 月でピークとなり、その後患者数は減っていく傾向にあります。岡山県でも、過去 5 年間の状況（患者数 5 名）をみると、5 月から 7 月の間に患者が発生しています。



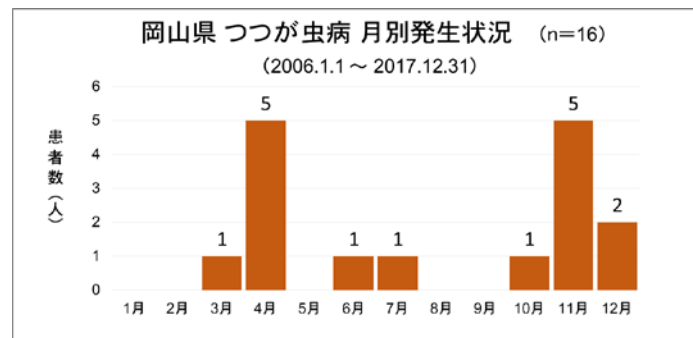
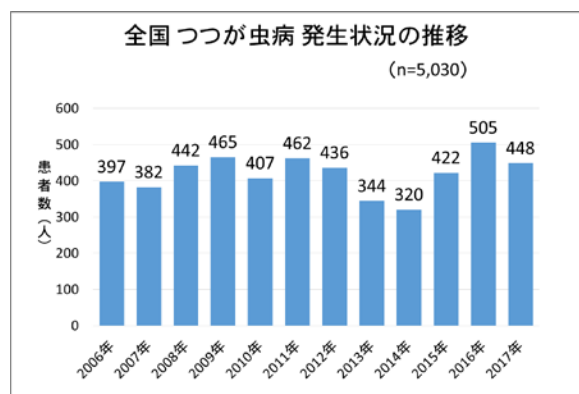
### ☆日本紅斑熱

全国の発生状況を見ると、年々患者数が増加しています。岡山県では、例年 3 名前後で推移していましたが、昨年は 7 名の報告がありました。月別発生状況では、5 月から 6 月と 8 月から 10 月にかけて、患者数が増加する傾向があります。



### ☆つつが虫病

全国の発生状況を見ると、患者数は近年横ばいです。岡山県の月別発生状況では、4 月と 11 月に患者数が増加する傾向があります。



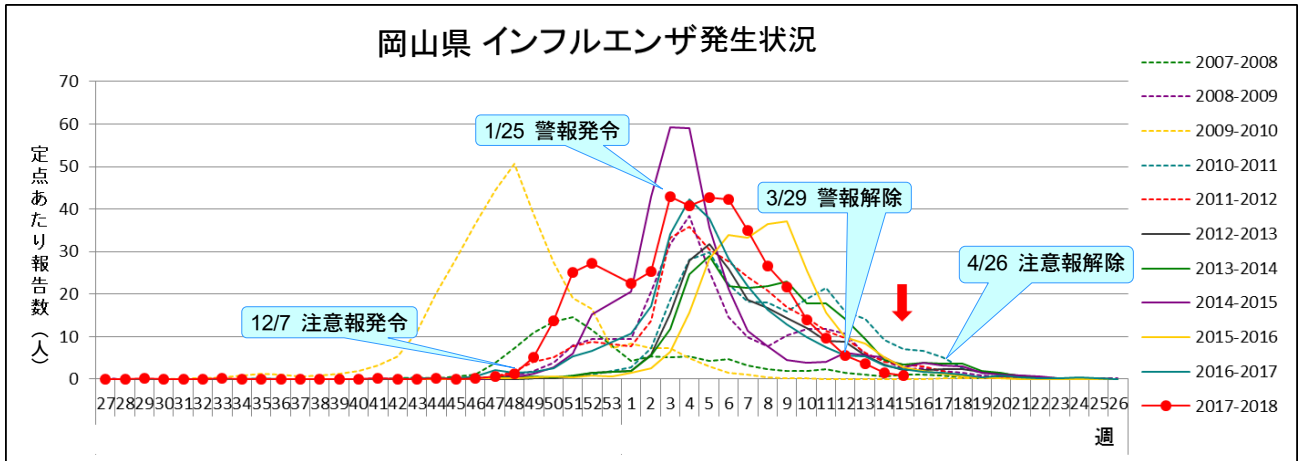


インフルエンザ週報 2018年 第15週 (4月9日～4月15日)

**岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(4月26日)**

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で67名(定点あたり0.80人)の報告がありました。(84 定点医療機関報告)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、ありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者3名の報告がありました。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で67名(定点あたり1.56 → 0.80人)の報告があり、前週より減少しました。

岡山県では、県全体の定点あたり報告数が第15週(0.80人)、第16週(0.79人)と2週連続して1人を下回ったため、2017年12月7日に発令された「インフルエンザ注意報」を、4月26日をもって解除しました。

注意報は解除になりましたが、ひきつづき手洗いなど感染予防を心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	67	↘	備 中	患者数	26	↗
	定点あたり	0.80			定点あたり	2.17	
岡山市	患者数	7	↘	備 北	患者数	4	↘
	定点あたり	0.32			定点あたり	0.67	
倉敷市	患者数	6	↘	真 庭	患者数	0	↘
	定点あたり	0.38			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	8	↘	美 作	患者数	16	↘
	定点あたり	0.53			定点あたり	1.60	

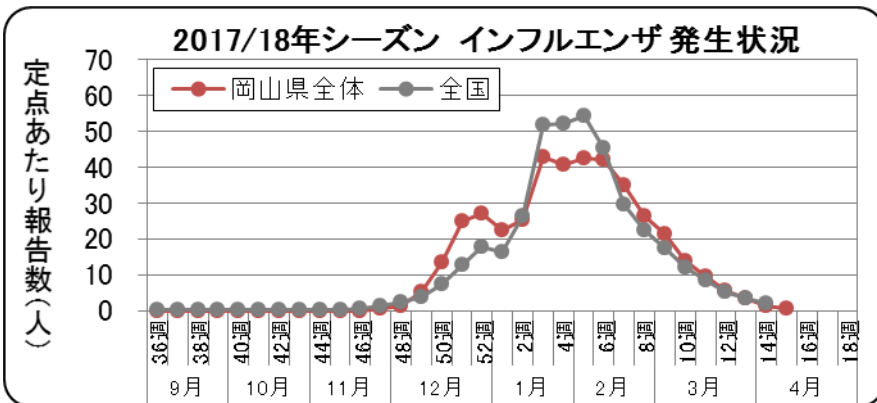
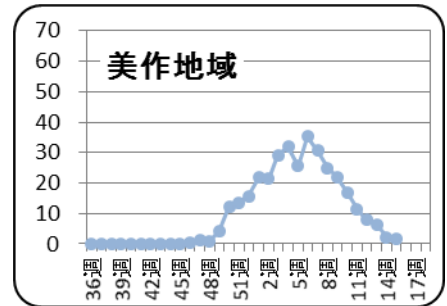
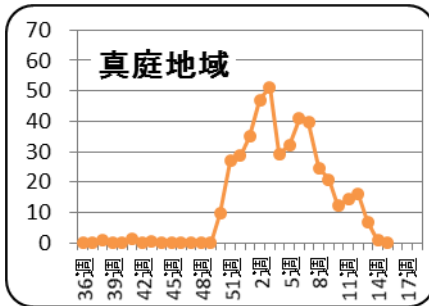
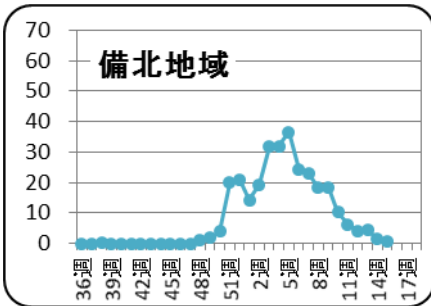
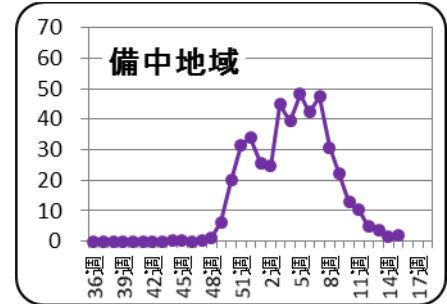
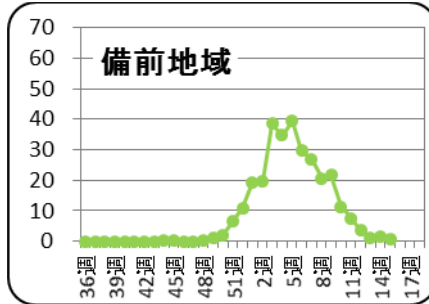
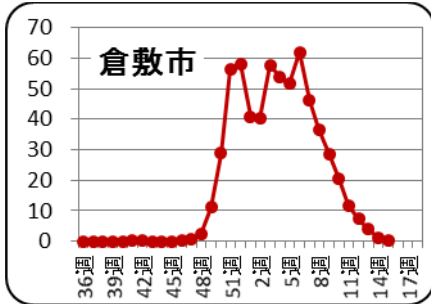
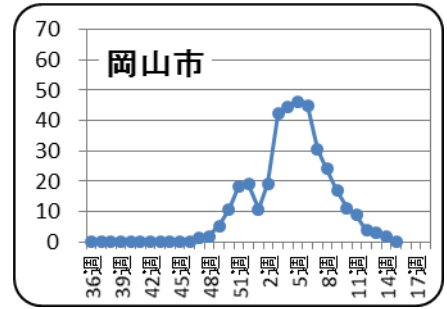
【記号の説明】 前週からの推移    ↑ : 大幅な増加    ↗ : 増加    ➡ : ほぼ増減なし    ↓ : 大幅な減少    ↘ : 減少  
 大幅 : 前週比100%以上の増減    増加・減少 : 前週比10~100%未満の増減

## インフルエンザ感染症マップ



### <インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0< 10未満		0



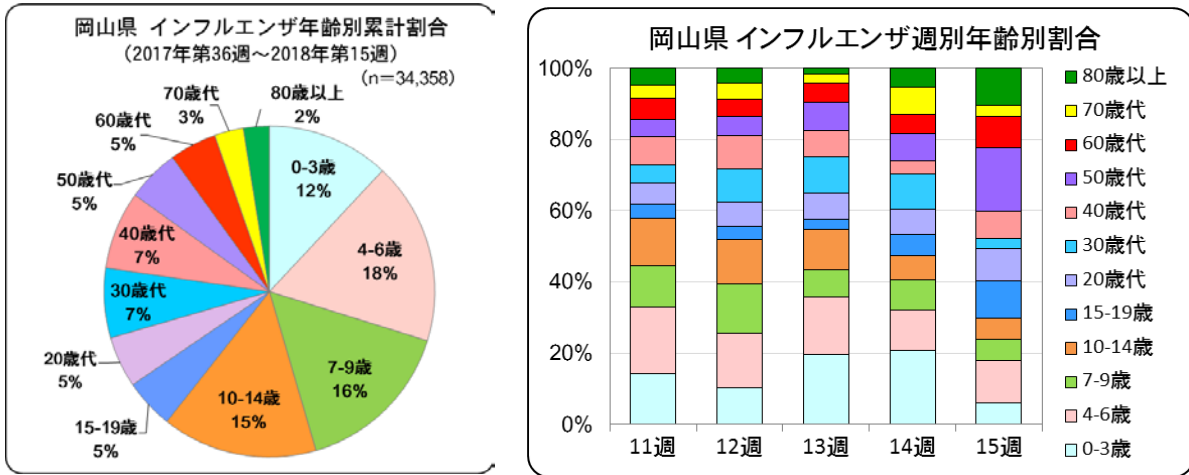
全国集計第14週(4/2~4/8)速報値によると、全国の定点あたり報告数は2.00人となり、前週(3.39人)より減少しました。都道府県別では、新潟県(8.03人)、山形県(7.10人)、岩手県(6.62人)、の順で定点あたり報告数が多くなっていますが、全47都道府県で前週の報告数よりも減少しました。

[インフルエンザの発生状況について](#)  
(厚生労働省)



## 2. 年齢別発生状況

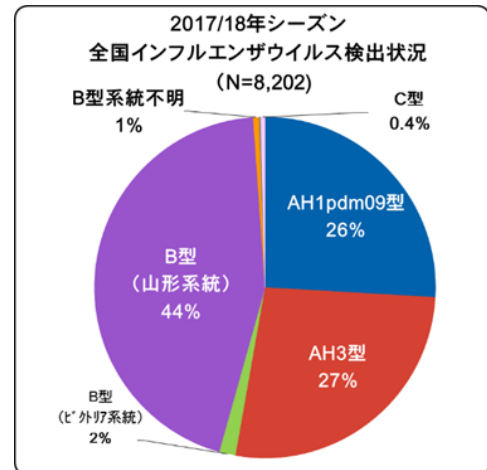
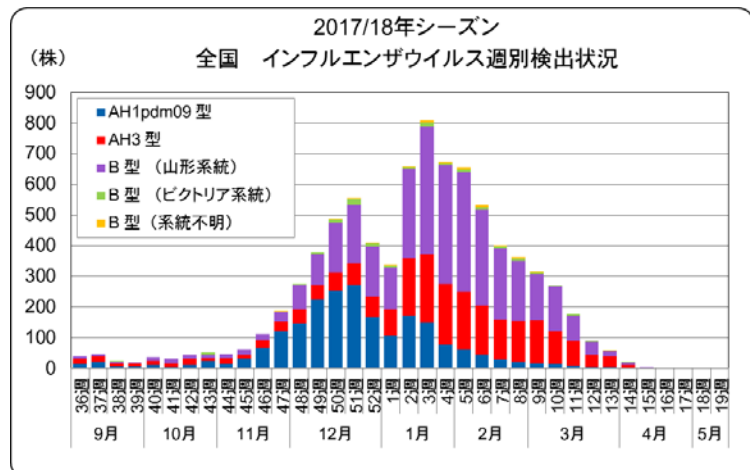
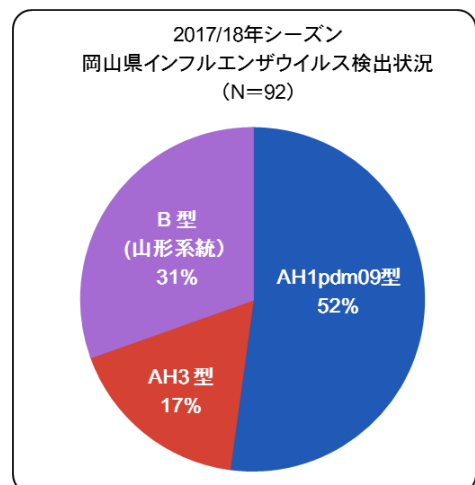
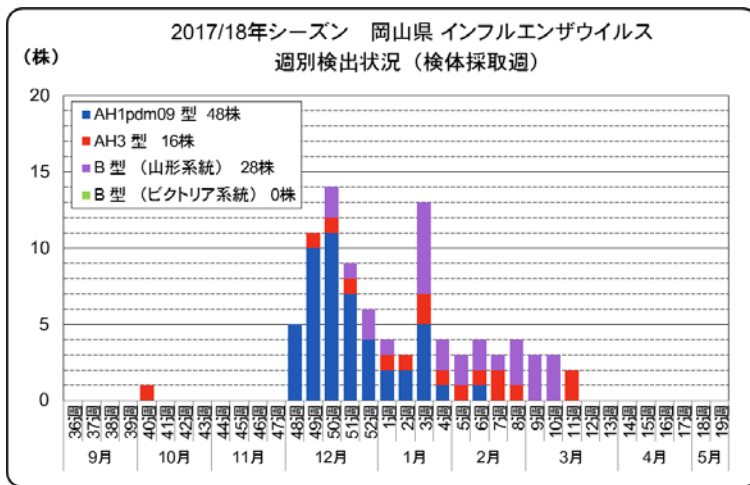
今シーズンの年齢別累計割合は、4-6歳 18%、7-9歳 16%、10-14歳 15%の順で高くなっています。



## 3. インフルエンザウイルス検出状況

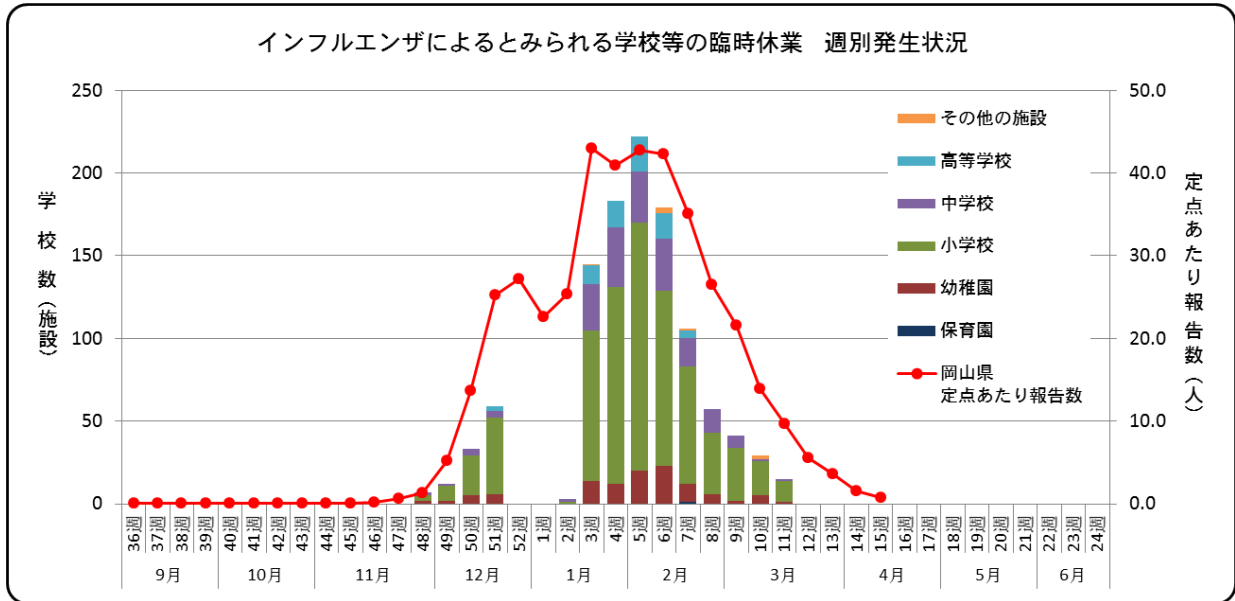
第15週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは92株で、その内訳は、AH1pdm09型 48株(52%)、AH3型 16株(17%)、B型(山形系統) 28株(31%)となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 26%、AH3型 27%、B型 47%〔山形系統 44%・ビクトリア系統 2%・系統不明 1%〕となっています。今シーズン初めから多数検出されていたAH1pdm09型は、第52週(12/25～12/31)以降減少傾向となり、代わってAH3型とB型(山形系統)の検出が増加しています。(4月23日現在)



#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、ありませんでした。



##### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	15522	0	12396	0	1091	0	20	0	251	0	820	H29.11.27
岡山市	0	6058	0	4677	0	394	0	2	0	41	0	351	H29.11.27
倉敷市	0	3463	0	2856	0	231	0	2	0	24	0	205	H29.11.27
備前地域	0	1569	0	1360	0	138	0	3	0	57	0	78	H29.12.13
備中地域	0	2254	0	1844	0	173	0	2	0	46	0	125	H29.12.5
備北地域	0	357	0	276	0	30	—	—	0	14	0	16	H29.12.4
真庭地域	0	280	0	237	0	25	0	3	0	16	0	6	H29.12.18
美作地域	0	1541	0	1146	0	100	0	8	0	53	0	39	H29.12.4

##### 2) 臨時休業施設数の内訳

第15週：0施設

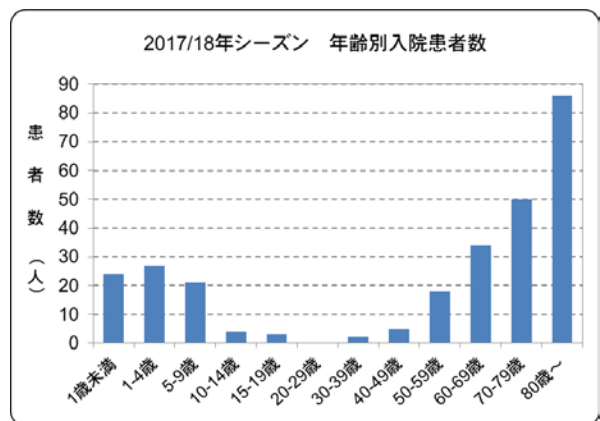
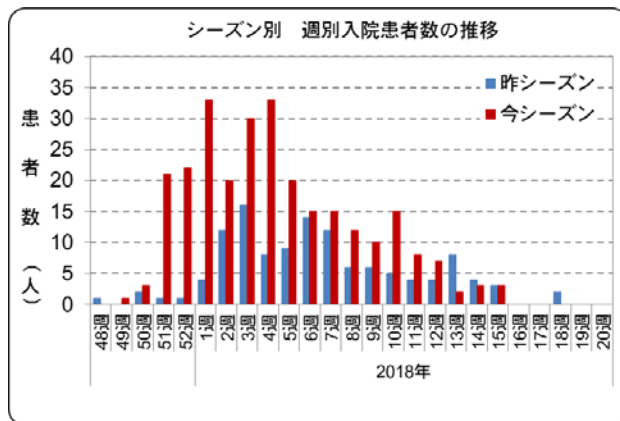
累計：1091施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	1	0	109	0	723	0	179	0	72	0	7

## 5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、3名（70～79歳 1名、80歳以上 2名）の報告がありました。今シーズンの入院患者は、昨シーズンよりも多い状況です。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 15 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数										1	1	1	3
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*											1	1	2
頭部MRI検査(予定含)*												1	1
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず										1			1

\* 重複あり

【2017年9月4日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	24	27	21	4	3		2	5	18	34	50	86	274
ICU入室*		1							1	3	9	4	18
人工呼吸器の利用*												1	1
頭部CT検査(予定含)*	1	3	3	2			1			5	6	19	40
頭部MRI検査(予定含)*	1	5	5	1			1			2	1	5	21
脳波検査(予定含)*		6	2										8
いずれにも該当せず	22	17	13	2	3		1	5	17	27	35	65	207

\* 重複あり

保健所別報告患者数 2018年 15週（定点把握）

（2018/04/09～2018/04/15）

2018年4月19日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	67	0.80	7	0.32	6	0.38	8	0.53	26	2.17	4	0.67	-	-	16	1.60
RSウイルス感染症	4	0.07	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	11	0.20	5	0.36	3	0.27	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	1.44	35	2.50	20	1.82	6	0.60	5	0.71	3	0.75	-	-	9	1.50
感染性胃腸炎	349	6.46	125	8.93	68	6.18	66	6.60	30	4.29	25	6.25	8	4.00	27	4.50
水痘	20	0.37	5	0.36	11	1.00	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
手足口病	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	29	0.54	18	1.29	7	0.64	-	-	-	-	2	0.50	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	-	-	6	1.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.40	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 15週（発生レベル設定疾患）

（2018/04/09～2018/04/15）

2018年4月19日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	67	0.80	7	0.32	6	0.38	8	0.53	26	2.17	4	0.67	-	-	16	1.60
咽頭結膜熱	11	0.20	5	0.36	3	0.27	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	1.44	35	2.50	20	1.82	6	0.60	5	0.71	3	0.75	-	-	9	1.50
感染性胃腸炎	349	6.46	125	8.93	68	6.18	66	6.60	30	4.29	25	6.25	8	4.00	27	4.50
水痘	20	0.37	5	0.36	11	1.00	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
手足口病	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	-	-	6	1.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2018年 第15週 2018/04/09～2018/04/15 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	67	-	-	-	1	3	4	2	2	-	2	2	4	7	6	2	5	12	6	2	7

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	11	-	-	5	1	2	-	-	1	-	-	1	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	-	-	1	6	11	9	11	9	5	9	3	8	1	5
感染性胃腸炎	349	4	22	63	46	35	33	19	19	13	15	6	23	8	43
水痘	20	-	1	-	2	2	1	1	4	3	1	1	3	-	1
手足口病	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
突発性発疹	29	1	12	14	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

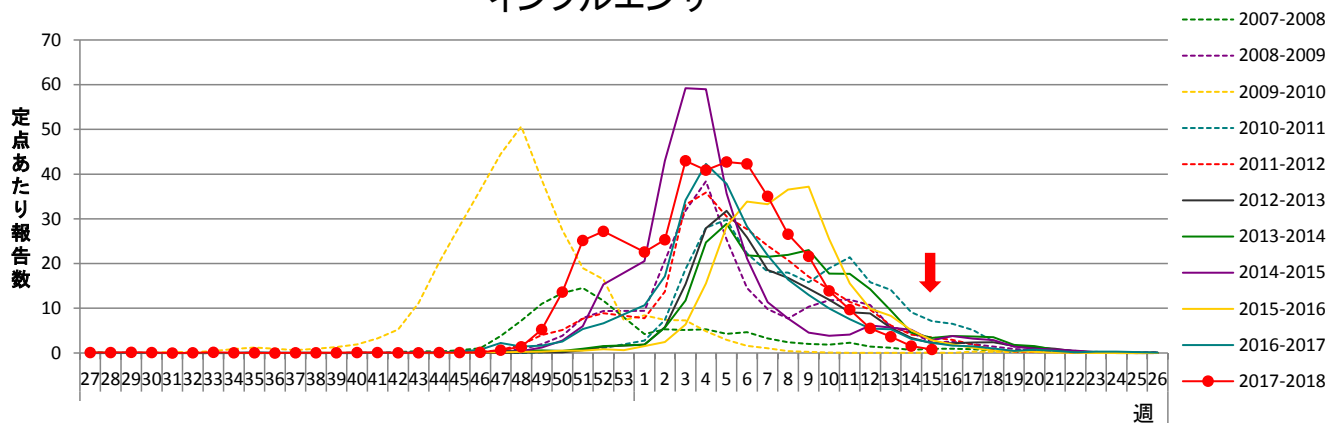


# 全数把握 感染症患者発生状況

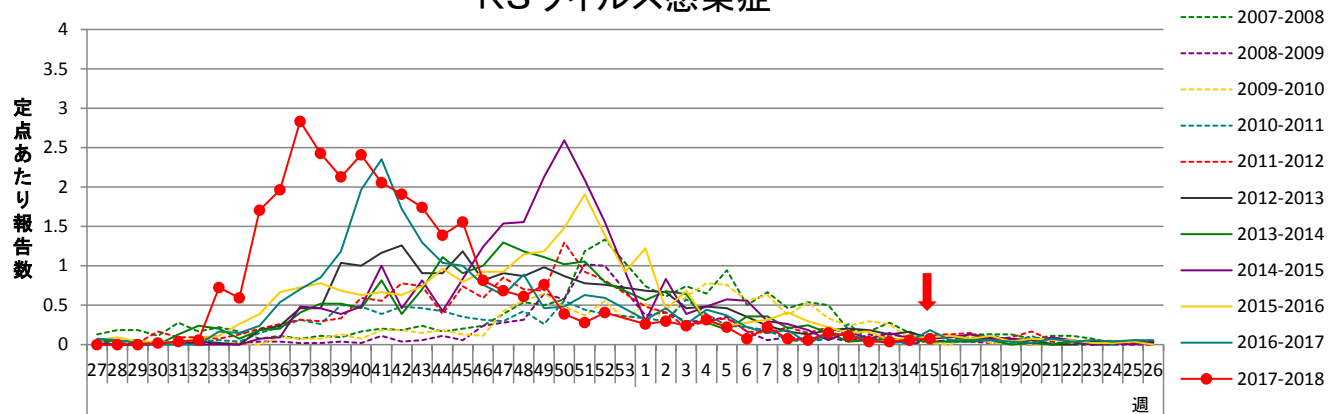
2018年 15週

分類	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	87	370	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	-	3	腸管出血性大腸菌感染症	-	1	70
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	7
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	9	30
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	6	22	ウイルス性肝炎	-	-	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	6
急性脳炎		-	1	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	8	9	後天性免疫不全症候群	-	4	22	ジアルジア症	-	-	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	-	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-	侵襲性肺炎球菌感染症	1	17	36
水痘(入院例に限る。)		-	1	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	2	41	172
播種性クリプトコックス症		-	1	1	破傷風	-	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	7	百日咳	1	42	-	風しん	-	-	-
麻しん		-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-

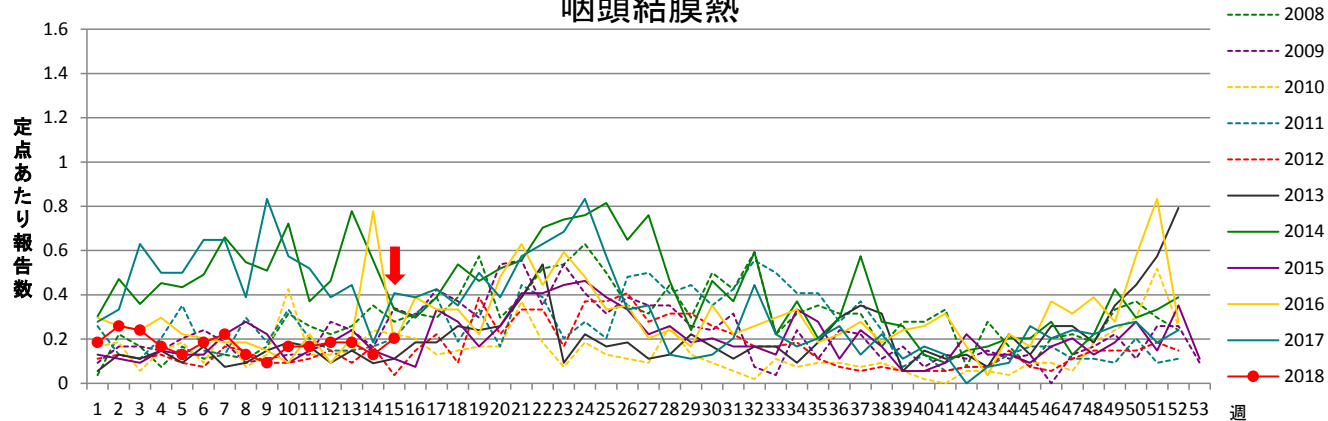
### インフルエンザ



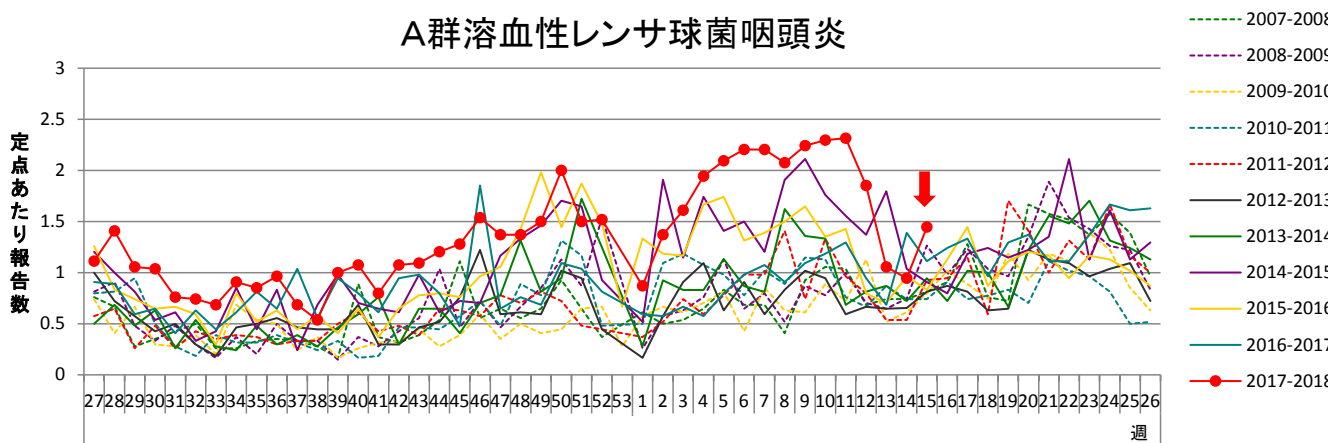
### RSウイルス感染症



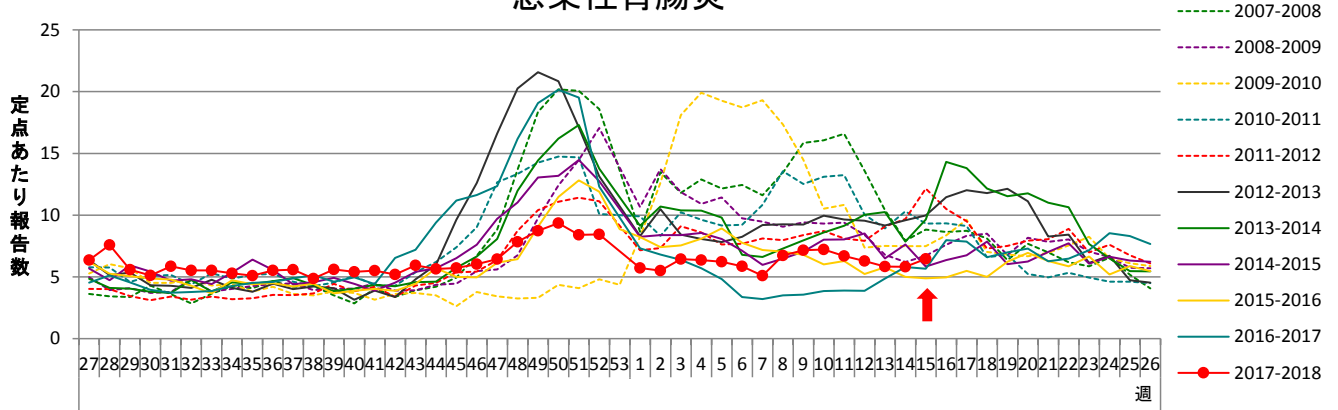
### 咽頭結膜熱



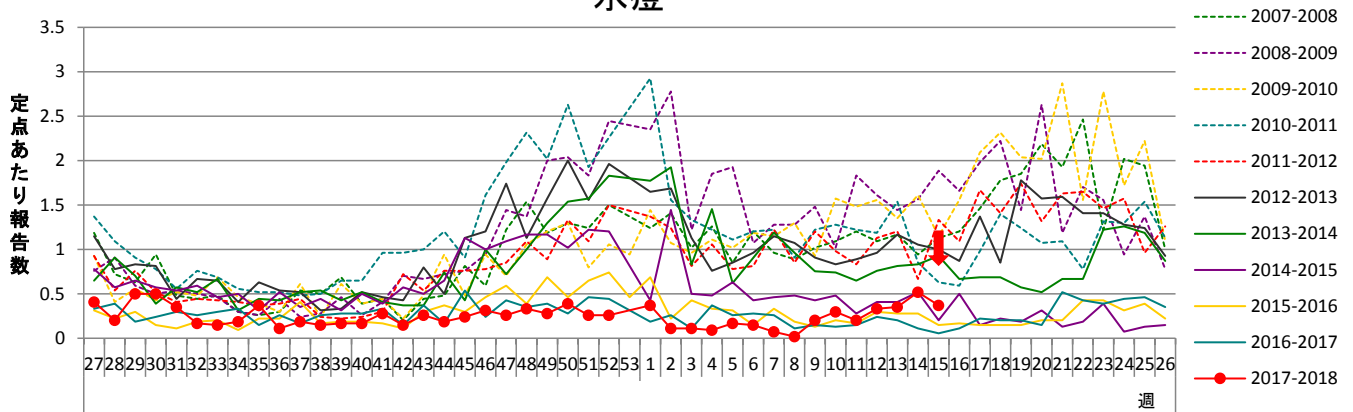
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



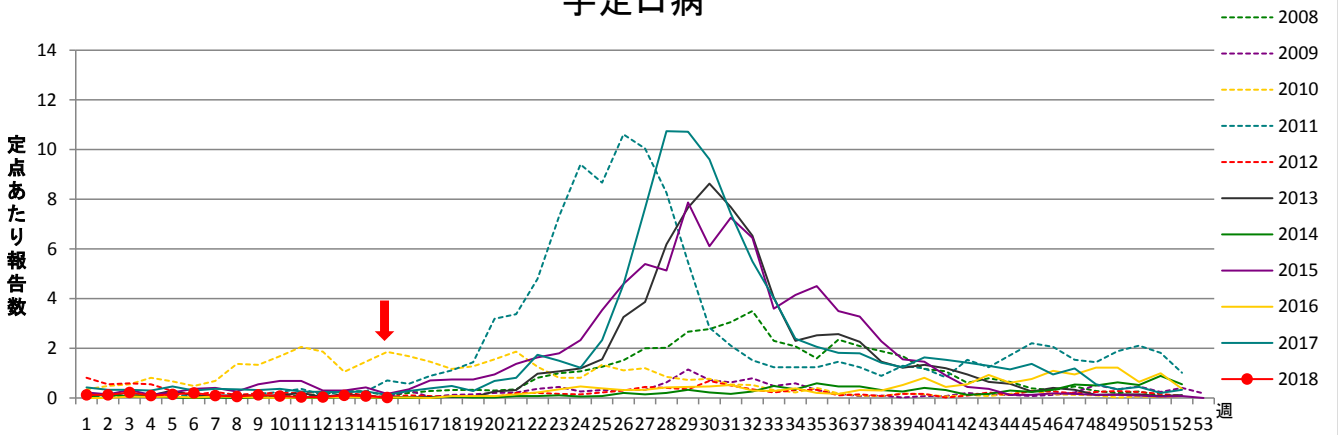
### 感染性胃腸炎



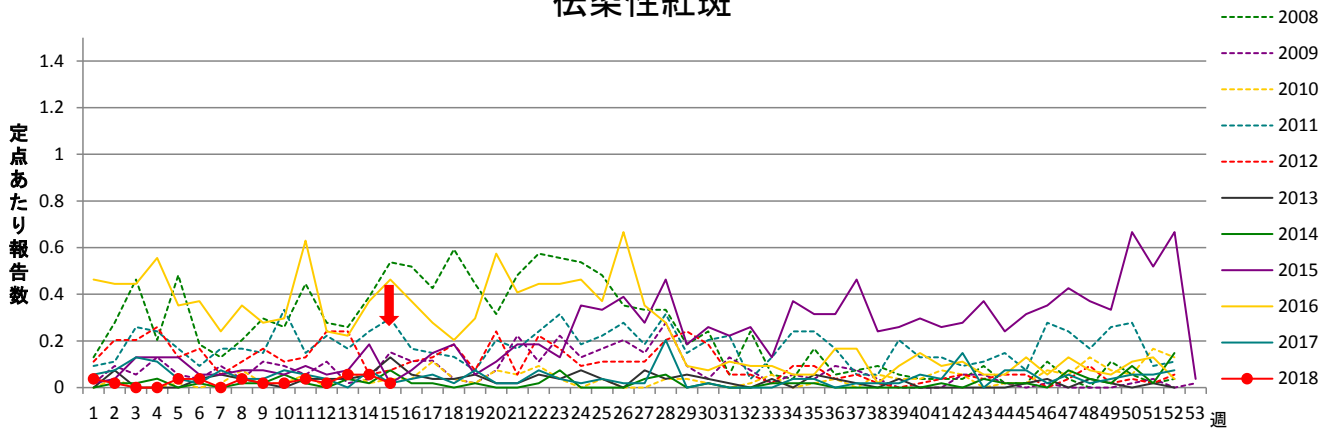
### 水痘



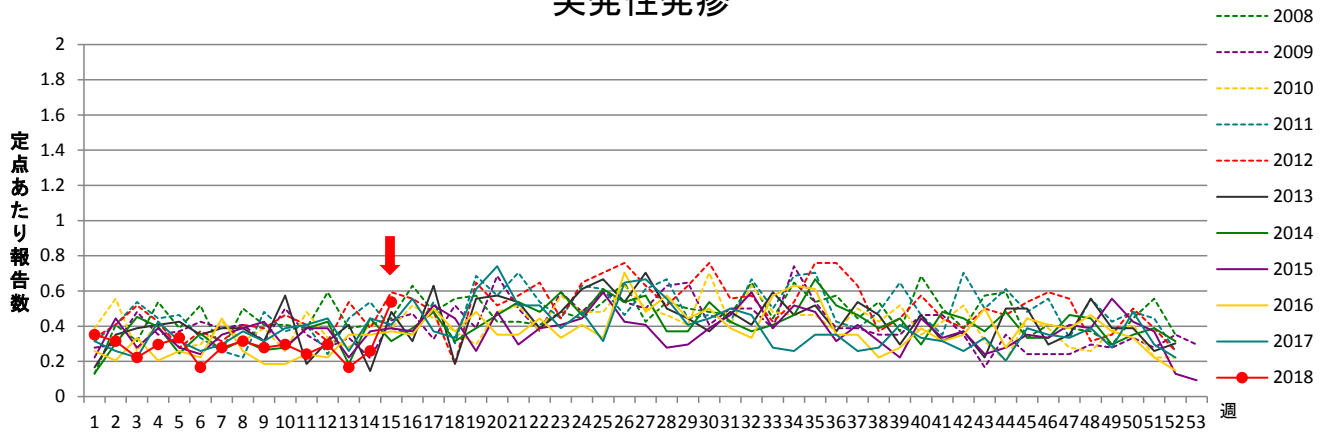
### 手足口病



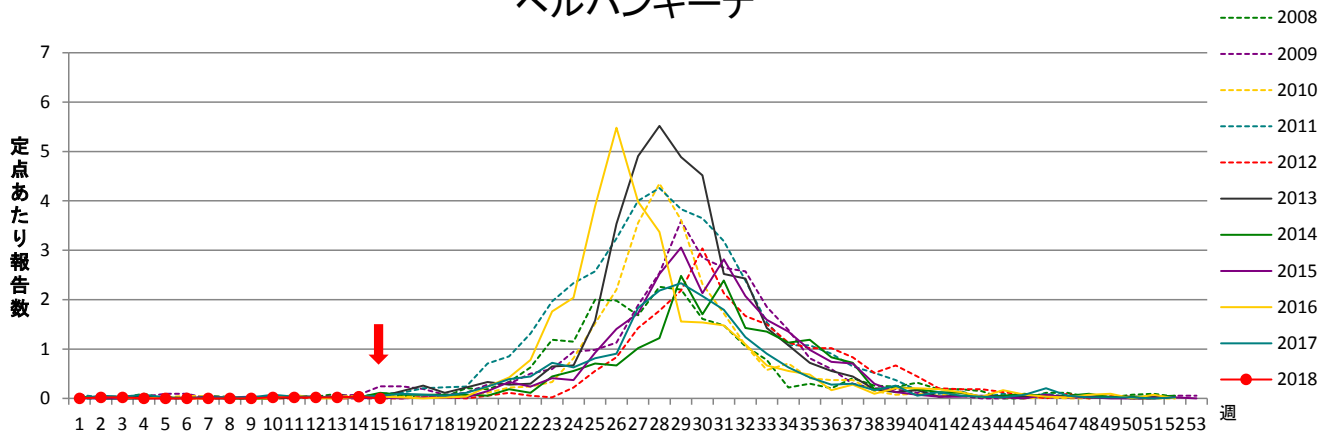
### 伝染性紅斑



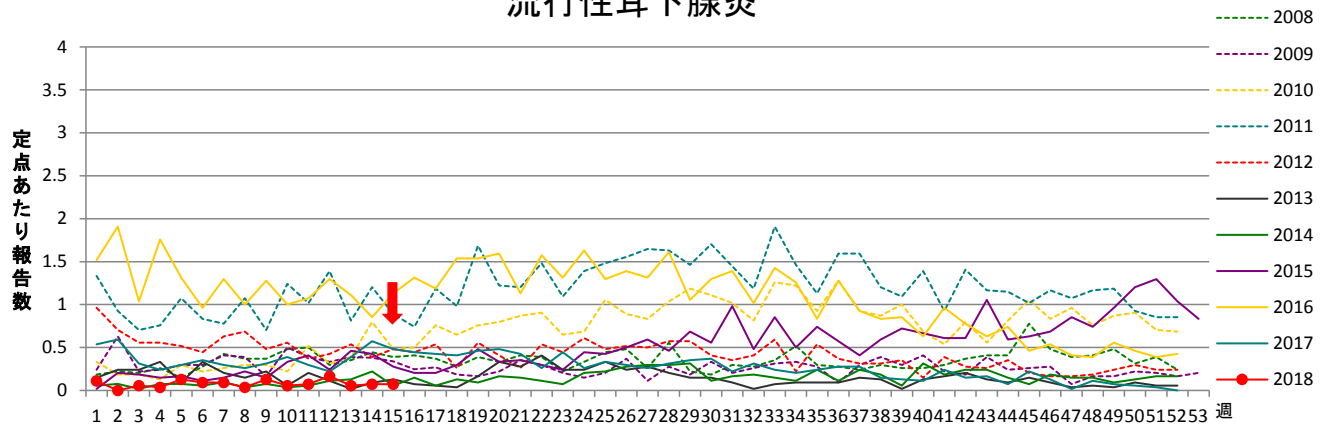
### 突発性発疹



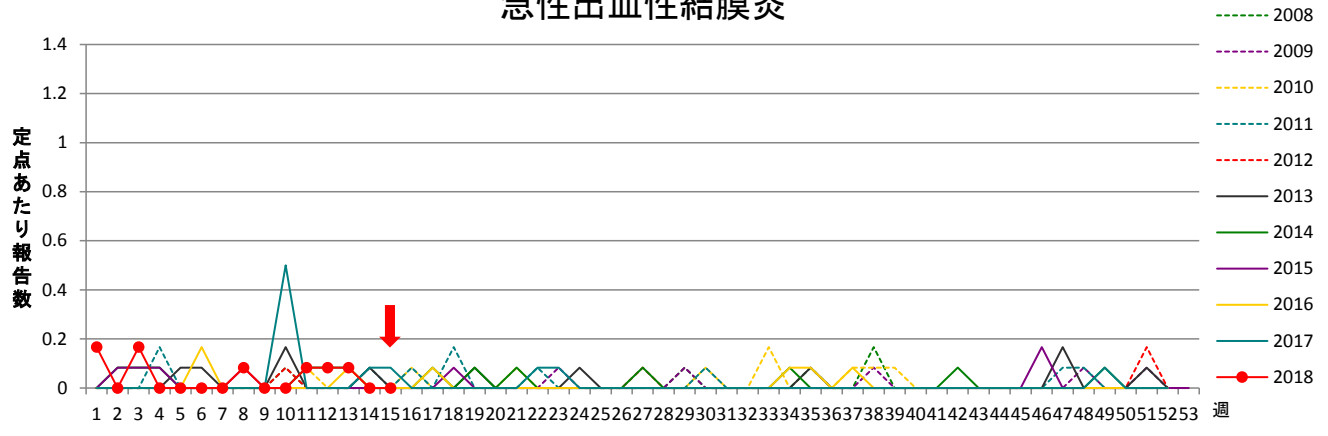
### ヘルパンギーナ



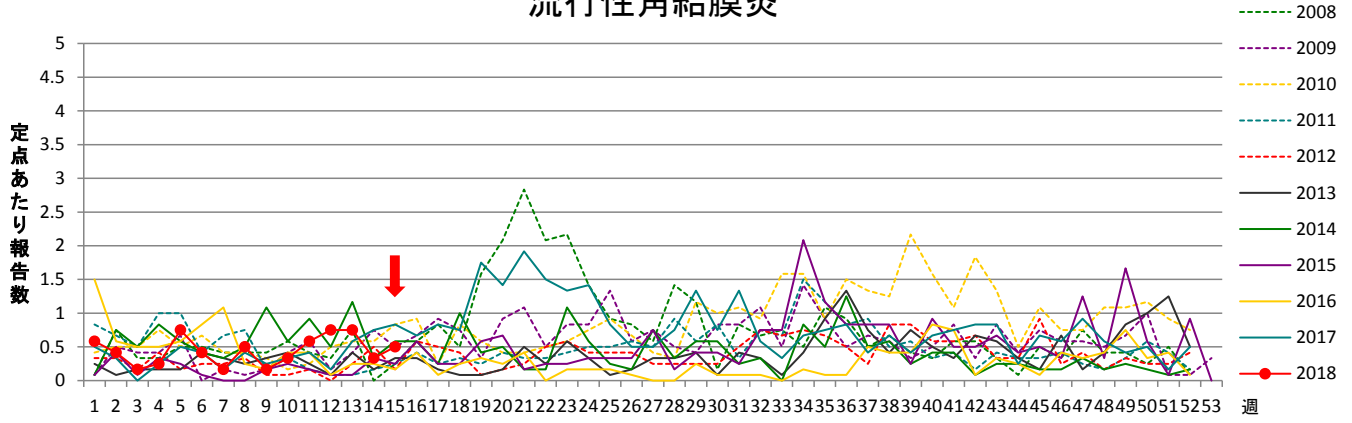
### 流行性耳下腺炎



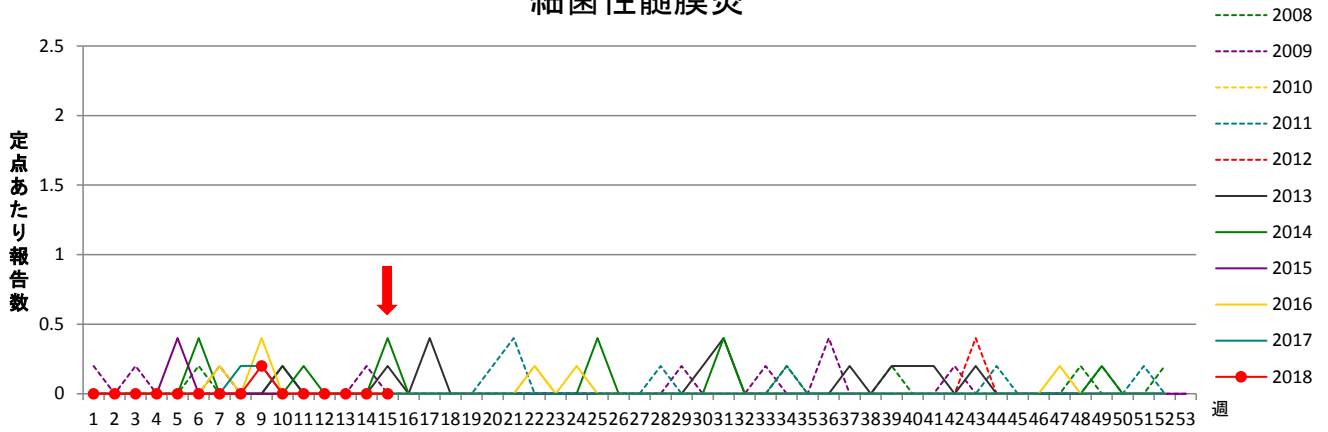
### 急性出血性結膜炎



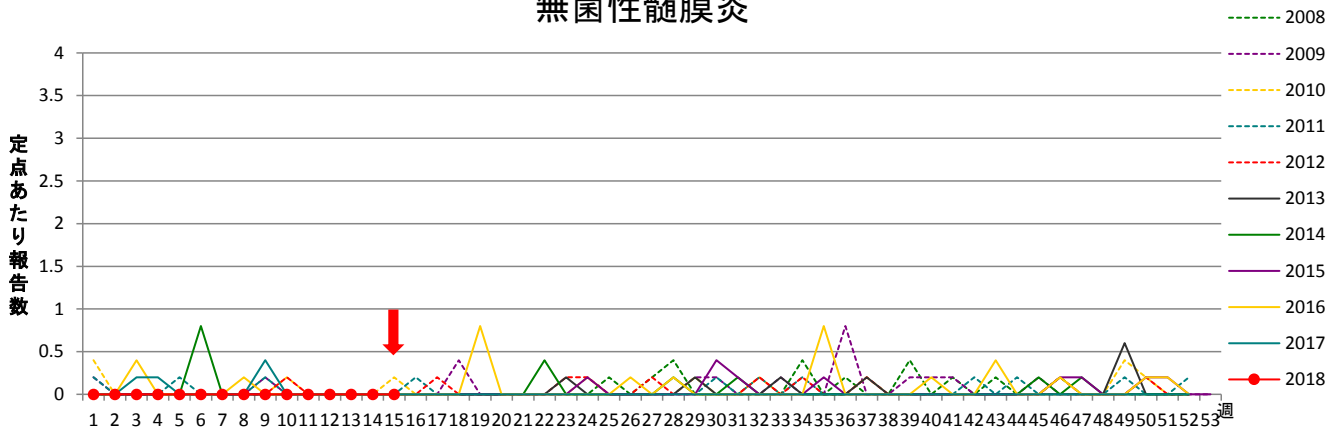
### 流行性角結膜炎



### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎

